

主な取組み	評価	実績	課題																																																												
①セカンドライフ応援事業の推進	○	<p>・高齢者の就労・ボランティア・生涯学習・健康づくり等の各種情報の一元化・提供体制を構築（セカンドライフ応援窓口及びHPの運営、セミナー開催等）</p> <p>指標 「セカンドライフ応援窓口を介して就労に至った高齢者」（単位：人）</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>36</td><td>44</td><td>51</td><td>50</td></tr> </table> <p>※平成28年度途中から柏市生涯現役促進協議会(詳細右欄)の相談窓口による実績を含む</p>		H26	H27	H28	H29(見込)		36	44	51	50	<p>・「柏市生涯現役促進協議会」は、平成28年6月に設置し平成31年度末まで厚労省職業安定局の委託を受けて高齢者の雇用機会の確保に関する事業を行うこととなっており</p> <p>課題① 同協議会に所属する関係団体（※下記）との連携が十分図れておらず、啓発活動が十分ではないため、市内で高齢者の就労の機会を十分創出できていない。</p> <p>※シルバー人材センター、柏商工会議所、沼南商工会、東京大学高齢社会総合研究機構、セカンドライフファクトリー、日本政策金融公庫松戸支店、社会福祉協議会、柏市</p> <p>課題② 同協議会が職業紹介に関するライセンスを有していないため、雇用する側と高齢者を具体的に近づけることができず、直接的に就職先を紹介できない。</p> <p>課題③ 窓口やホームページのアクセスが多いとは言えないので、周知啓発が必要。</p>																																																		
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
	36	44	51	50																																																											
②高齢者就労の支援	○	<p>・市と東京大学が生きがい就労のモデル事業を行いその有効性を実証後、シルバー人材センターにジョブコーディネーターを配置し生きがい就労を支援した。</p> <p>指標 「ジョブコーディネーターの支援により就労に至った高齢者」（単位：人）</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>256</td><td>309</td><td>完了※</td><td>完了※</td></tr> </table> <p>※平成27年度で補助金交付が終了。平成28年度からはシルバー人材センターが独自にジョブコーディネーターを拡大配置し継続実施。</p>		H26	H27	H28	H29(見込)		256	309	完了※	完了※	<p>課題 「生きがい就労事業」は終了したが、上記「生涯現役促進地域連携事業」の協議会メンバーであるシルバー人材センターとの連携を継続していく必要がある。</p>																																																		
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
	256	309	完了※	完了※																																																											
③地域でのボランティア活動の推進	△	<p>指標① 「ボランティアのコーディネート数」（単位：回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア相談件数は横ばい、コーディネート数や講座数（参加者）、ボランティア登録数（団体・個人）等は微増 <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>614</td><td>531</td><td>568</td><td>575</td></tr> </table> <p>指標② 「地域いきいきセンターの拡充」（単位：ヶ所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り増設。相談や事業等を通じ着実に地域に根付いている。 <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td></tr> </table> <p>指標③ 「介護支援サポーター」（単位：人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数、交付申請者数、受入施設数共に年々増加傾向 <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td>登録者数</td><td>998</td><td>1,135</td><td>1,212</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>交付申請者数</td><td>665</td><td>782</td><td>859</td><td>900</td></tr> <tr><td>受入施設数</td><td>164</td><td>194</td><td>232</td><td>250</td></tr> </table> <p>指標④ 「老人クラブ加入者数」（単位：人）</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>6,336</td><td>6,144</td><td>5,875</td><td>5,800</td></tr> </table> <p>指標⑤ 「福祉バス利用人数」（単位：人（28年度以降は団体数））</p> <p>※平成28年度より事業目的を地域団体の活動支援とし、借上バス利用費の助成に見直し。運営方法も補助金方式に変更。</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>9,757</td><td>9,941</td><td>243※</td><td>250※</td></tr> </table>		H26	H27	H28	H29(見込)		614	531	568	575		H26	H27	H28	H29(見込)		3	4	4	5		H26	H27	H28	H29(見込)	登録者数	998	1,135	1,212	1,300	交付申請者数	665	782	859	900	受入施設数	164	194	232	250		H26	H27	H28	H29(見込)		6,336	6,144	5,875	5,800		H26	H27	H28	H29(見込)		9,757	9,941	243※	250※	<p>課題① 新たな地域課題に取り組むボランティア団体等の育成</p> <p>既存のボランティア団体では、活動者の高齢化が目立ち活動の継続に課題が多い。</p> <p>一方で、地域における生活課題は複雑、多様化しており、ボランティア活動の領域は拡大する傾向にある。</p> <p>こうした地域課題の解決に関心のある個人を、団体活動に効果的に繋げるプログラムや中間支援機能が重要となってくる。</p> <p>課題② 個人ボランティア登録者への活動へのコーディネート</p> <p>ボランティアセンターにおける登録者の活動希望が、団体ではなく個人単位でのものが増加してきている。</p> <p>こうした活動者のニーズに合わせ、ボランティアの活動場所を確保し、両者を繋ぐコーディネート能力が必要になる。</p> <p>課題③ 介護予防の視点からも、社会参加する高齢者を増加させることが重要となる。</p> <p>課題④ 老人クラブへの加入者は年々減少している。</p> <p>課題⑤ 借上バスも想定より利用数が低迷している。</p>
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
	614	531	568	575																																																											
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
	3	4	4	5																																																											
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
登録者数	998	1,135	1,212	1,300																																																											
交付申請者数	665	782	859	900																																																											
受入施設数	164	194	232	250																																																											
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
	6,336	6,144	5,875	5,800																																																											
	H26	H27	H28	H29(見込)																																																											
	9,757	9,941	243※	250※																																																											

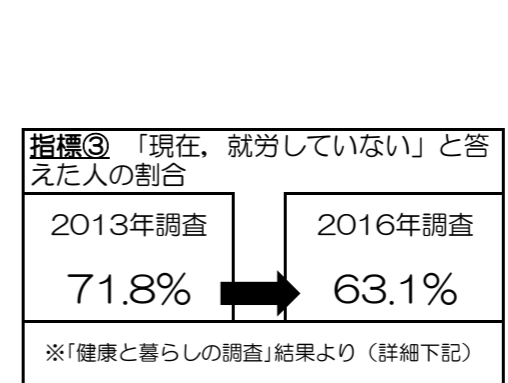
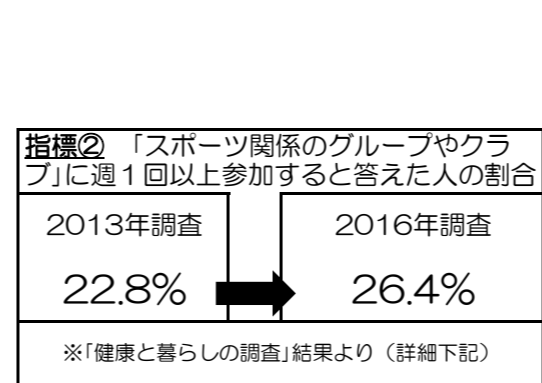
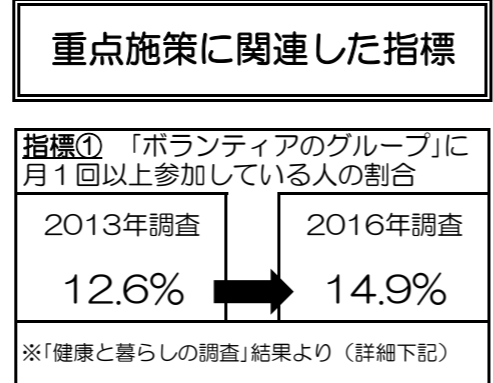
上記の「評価」の考え方について

市では、政策目標1「いきいきとその人らしく暮らせるまちづくり」の目標に対し様々な施策を実施しています。今回、政策目標にばら下がる「主な取組み」ごとに以下の考え方に基づき評価案を作成しました。

①事業をどれだけ行ってきたのか？
 ②目標がどの程度まで達成されたのか？
 ③課題がどの程度解消されたのか？

以上3点について総合的に評価を行い、結果を以下の3つでお示ししています。

「目標を概ね達成した」「課題を達成した」場合は、「○」
 「目標の達成が困難である」「課題解決に至らなかった」場合は、「△」
 「事業に着手していない（未着手）」の場合は、「×」



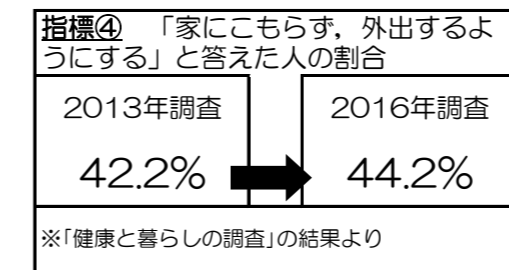
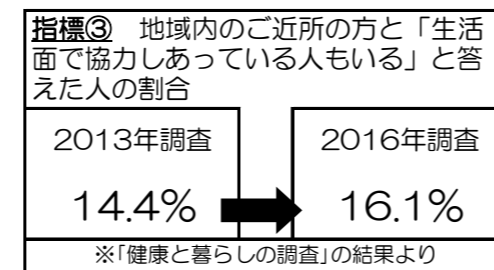
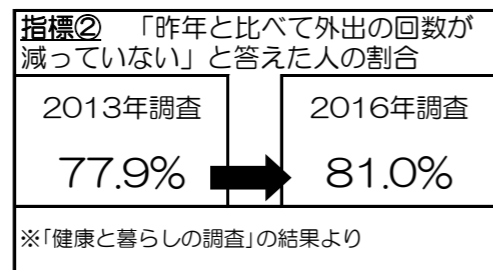
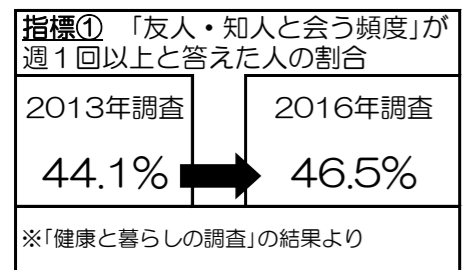
※「健康と暮らしの調査」について
 2013年と2016年に「日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクト」と協力し実施したアンケート調査。65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない6,000人の市民に対し、郵送で調査を実施（※2016年調査は要支援認定者を含む）。

政策目標1 「いきいきとその人らしく暮らせるまちづくり」 第2節 高齢者の居場所づくり

資料2

主な取組み	評価	実績	課題																										
①老人福祉センターの管理運営	○	<p>指標 「老人福祉センターの利用者数」 (単位：人)</p> <p>※柏寿荘，中央老人福祉センター，南部老人福祉センタ（かたくりの里），沼南老人福祉センター（いこい荘）の利用者数の合計</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29(見込)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>167,444</td> <td>157,148</td> <td>154,792</td> <td>160,000</td> </tr> </table>		H26	H27	H28	H29(見込)		167,444	157,148	154,792	160,000	<p>課題① センターの介護予防拠点としての機能の見直し 老人福祉センターは利用者数が減少していると共に，利用者が固定している。しかし，一定数のいわゆる「元気高齢者」が定期的集まる場所となっている。これはフレイル予防の実践拠点として非常に有効な状態である。 フレイルチェックのみならず，フレイル予防の活動メニューを加えることで，地域の介護予防拠点としての役割が期待できる。</p> <p>課題② 各センターの老朽化への対応</p>																
	H26	H27	H28	H29(見込)																									
	167,444	157,148	154,792	160,000																									
②ふれあいサロン活動の支援	○	<p>・平成27年2月より生活支援体制整備事業が実施され，市内20地域に支えあい推進員が配置，サロン活動やコミュニティカフェ事業等が着実に推進される環境の整備が進んでいる。</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29(見込)</th> </tr> <tr> <td>①ふれあいサロン(月1型)</td> <td>188</td> <td>169</td> <td>189</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>②週1型コミュニティカフェ</td> <td>—</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>③常設型コミュニティカフェ</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> </table> <p>補助事業の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロンに対する運営費補助 ・通いの場に対する運営費補助（H28開始） ・常設型通いの場に対する開設補助（H28開始） ・空き店舗を活用したコミュニティカフェに対する開設補助 ・空き店舗を活用したコミュニティカフェに対する家賃補助（最長3年間）（H29開始） <p>担い手育成</p> <table border="1"> <tr> <td>H28</td> <td>通いの場基礎講座，同フォローアップ視察研修</td> <td>延べ80名</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>同様の担い手研修を実施予定</td> <td>延べ40名</td> </tr> </table>		H26	H27	H28	H29(見込)	①ふれあいサロン(月1型)	188	169	189	200	②週1型コミュニティカフェ	—	8	10	14	③常設型コミュニティカフェ	—	1	9	11	H28	通いの場基礎講座，同フォローアップ視察研修	延べ80名	H29	同様の担い手研修を実施予定	延べ40名	<p>課題① ふれあいサロン及びコミュニティカフェ等「通いの場」の増加が必要 身近な「歩いていける場所」に様々な「通いの場」や居場所を確保していく必要性について，各地域の支えあい会議などを通じて働きかけを行うと共に，関係部署と連携を図り，場所の確保についても検討を進めることが必要</p> <p>課題② 「通いの場」のプログラム・メニューの充実 担い手の方々の負担が過重になりすぎず，利用者の増加にもつながるための，介護予防に効果的なプログラム・メニューの提案や共有が必要</p>
	H26	H27	H28	H29(見込)																									
①ふれあいサロン(月1型)	188	169	189	200																									
②週1型コミュニティカフェ	—	8	10	14																									
③常設型コミュニティカフェ	—	1	9	11																									
H28	通いの場基礎講座，同フォローアップ視察研修	延べ80名																											
H29	同様の担い手研修を実施予定	延べ40名																											
③コミュニティカフェ事業への支援	○	<p>(注)「ふれあいサロン」，「コミュニティカフェ事業」について 平成27年2月より生活支援体制整備事業を実施し，地域の支えあいについて協議を進める中で，「サロン活動」「週1回以上の通いの場」「常設型(週4日以上)通いの場」の3つに分類して，地域の交流の場，社会参加の場としての役割を持つようにそれぞれを推進して行くこととなった。 第6期プランでは，「ふれあいサロン」，「コミュニティカフェ事業」は別々の事業として位置づけられているが，コミュニティカフェは，主に常設型の通いの場となるので2つの事業をまとめて記載している。</p>																											

重点施策に関連した指標

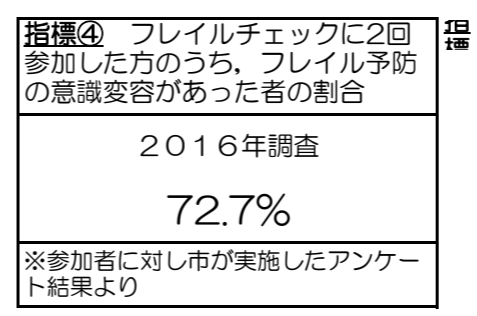
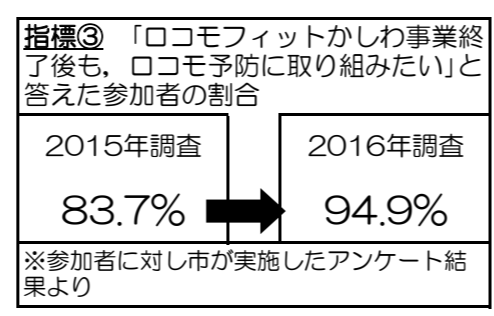
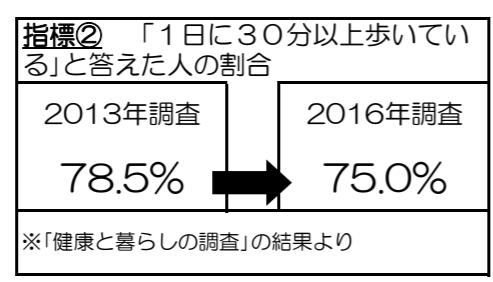
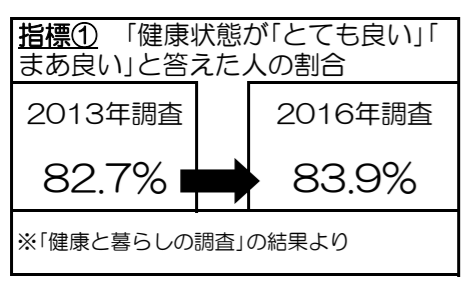


政策目標1 「いきいきとその人らしく暮らせるまちづくり」 第3節 健康づくりの推進

資料2

主な取組み	評価	実績	課題																																								
①介護予防事業の拡充	○	指標 「ロコモ予防に取り組む高齢者数」 (単位:人) <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>658</td><td>1,018</td><td>1,168</td><td>1,308</td></tr> </table>		H26	H27	H28	H29(見込)		658	1,018	1,168	1,308	課題 介護予防事業参加後の継続的な取組支援について 高齢者が身近な地域で継続的に介護予防に取り組めるよう、市主催教室等の自主グループ化支援を、地域包括支援センター・地区社会福祉協議会等と連携し、強化を図る必要がある。																														
	H26	H27	H28	H29(見込)																																							
	658	1,018	1,168	1,308																																							
②介護予防の普及啓発と地域活動の育成・支援	△	指標① 「介護予防センターで実施した介護予防講座の参加者数」 (単位:人) <table border="1"> <tr><th></th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>1,662</td><td>1,700</td></tr> </table> 指標② 「柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会の実施回数」 (単位:回) <table border="1"> <tr><th></th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>3</td><td>3</td></tr> </table> 指標③ 「介護予防グループへの講師派遣回数」 (単位:回) <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>19</td><td>71</td><td>87</td><td>90</td></tr> </table> 指標④ 「地域包括支援センターによる取り組み」 (単位:人) <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>19,464</td><td>15,428</td><td>17,039</td><td>18,000</td></tr> </table> 指標⑤ 「セミナーや視察研修の開催数」 (単位:回) <table border="1"> <tr><th></th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>5</td><td>6</td></tr> </table> ・地域で通いの場を運営する団体で活動する担い手や、立ち上げを検討している方を対象としたセミナーや視察研修を開催した。		H28	H29(見込)		1,662	1,700		H27	H28	H29(見込)		1	3	3		H26	H27	H28	H29(見込)		19	71	87	90		H26	H27	H28	H29(見込)		19,464	15,428	17,039	18,000		H28	H29(見込)		5	6	課題① 介護予防グループへの支援については、市民サポーターの講師育成が必要 課題② 地域ぐるみのフレイル予防の推進を図るため、地域の自主活動団体の情報収集や連携を強化 課題③ 「フレイルチェック」をより多くの市民や、サロン等の活動の場で実施してもらうことが必要であるとともに、活動の効果を継続して評価する仕組みが必要 課題④ 市民が積極的・継続的に、身近な地域でフレイル予防に取り組みやすくなるために、地域の自主活動団体の情報収集や連携を強化し、情報提供を行える環境整備が必要
	H28	H29(見込)																																									
	1,662	1,700																																									
	H27	H28	H29(見込)																																								
	1	3	3																																								
	H26	H27	H28	H29(見込)																																							
	19	71	87	90																																							
	H26	H27	H28	H29(見込)																																							
	19,464	15,428	17,039	18,000																																							
	H28	H29(見込)																																									
	5	6																																									
③介護予防・生活支援サービス事業の実施	△	指標 「介護予防ケアマネジメント利用人数」 (単位:人) ・緩和された基準によるサービス(サービスA)は、事業の枠組みを構築できた。しかし、利用状況は予想を大きく下回った。住民主体による支援(サービスB)は、新規団体が多く立ち上がる等、着実に広がりを見せている。 <table border="1"> <tr><th></th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>196</td><td>1,498</td><td>1,700</td></tr> </table>		H27	H28	H29(見込)		196	1,498	1,700	課題① 自立支援を目的としたケアマネジメントによる訪問型サービスA及び住民主体のサービスBについて、地域包括支援センターを通じケアマネジャーに周知し利用促進を図ることが必要 課題② 活動団体の増加、活動が維持できるよう支援																																
	H27	H28	H29(見込)																																								
	196	1,498	1,700																																								
④健康相談・各種健診事業の推進	○	指標① 「健康相談実施状況」 (単位:人) ※平成26年度までは血圧測定等のみの専門職派遣依頼も含まれたが、平成27年度以降は含めないこととした。 <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td></td><td>2,591</td><td>419※</td><td>327※</td><td>350※</td></tr> </table> 指標② 「胃がん・大腸がん・肺がん検診の受診者数」 (単位:人) <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29(見込)</th></tr> <tr><td>胃がん検診受診者数</td><td>11,152</td><td>10,612</td><td>10,043</td><td>10,000</td></tr> <tr><td>大腸がん検診受診者数</td><td>20,125</td><td>21,497</td><td>19,575</td><td>20,600</td></tr> <tr><td>肺がん検診受診者数</td><td>16,332</td><td>17,124</td><td>17,336</td><td>17,400</td></tr> </table> 指標③ 「特定健診の受診率(法定報告値)」 (単位:%) <table border="1"> <tr><th></th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28(見込)</th><th>H29</th></tr> <tr><td></td><td>40.8%</td><td>42.0%</td><td>42.3%</td><td>—</td></tr> </table>		H26	H27	H28	H29(見込)		2,591	419※	327※	350※		H26	H27	H28	H29(見込)	胃がん検診受診者数	11,152	10,612	10,043	10,000	大腸がん検診受診者数	20,125	21,497	19,575	20,600	肺がん検診受診者数	16,332	17,124	17,336	17,400		H26	H27	H28(見込)	H29		40.8%	42.0%	42.3%	—	課題① 健康相談の場所として、各世代別・目的別に様々な相談場所が整備されており、一般的な健康相談の役割は軽減している感がある。 課題② がん検診の受診者数向上対策として、がん予防啓発活動の強化及び定期的ながん検診の受診勧奨が必要 課題③ 胃がん、大腸がん、結核・肺がん検診は70歳以上の受診者が受診者全体の約5割を占めている。安心・安全に検診を受けられるよう、一層のサポートや見守りが必要 課題④ 特定健診は、目標の60%の受診率に達していない。特に40・50歳代の未受診率が高いことから、勧奨等により健診の受診率を上げる。
	H26	H27	H28	H29(見込)																																							
	2,591	419※	327※	350※																																							
	H26	H27	H28	H29(見込)																																							
胃がん検診受診者数	11,152	10,612	10,043	10,000																																							
大腸がん検診受診者数	20,125	21,497	19,575	20,600																																							
肺がん検診受診者数	16,332	17,124	17,336	17,400																																							
	H26	H27	H28(見込)	H29																																							
	40.8%	42.0%	42.3%	—																																							

重点施策に関連した指標



指標⑤ フレイルチェックに2回以上参加した方における、1回目・2回目の結果の変化

2016年調査	1回目	2回目
日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している割合	70.1%	75.8%
お口の元気度(60点満点)58点以上の割合	48.9%	54.0%
何よりもまず、物忘れが気になる割合	44.9%	37.3%

※参加者に対し市が実施したアンケート結果より